

## (8) 中国



中国地域では、景気は回復している。

- ・ 鋳工業生産は増加している。
- ・ 個人消費は緩やかに回復している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

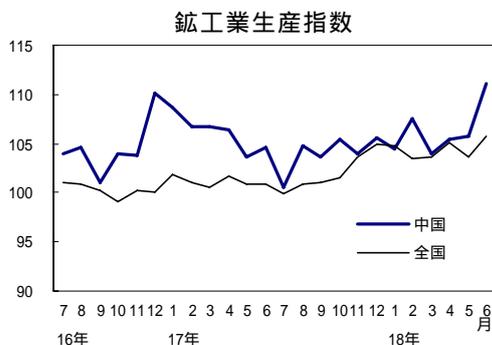
### 前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 18 年 5 月)	今回 (平成 18 年 8 月)	
住宅建設	増加	大幅に増加	

### 1. 生産及び企業動向

#### (1) 鋳工業生産は増加している。

化学は、自動車部品に使用する樹脂原料が好調であったが、定期修理と重なったこともあり、おおむね横ばいとなった。鉄鋼は、車や造船向けが、輸出も含めて引き続き好調であったが、定期修理と重なったこともあり、おおむね横ばいとなった。輸送機械は、自動車が北米向けの輸出を中心に、国内外で堅調に推移していることから、増加している。一般機械は、自動車のプレス用金型や印刷機械が、国内外で好調であったため、増加している。電子部品・デバイスは、液晶や携帯電話向けの部品が引き続き好調であるが、新型モデル等の生産が少なかったため、減少している。



- (備考) 1. 12年=100、季節調整値。  
2. 平成18年6月の中国は速報値。

#### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

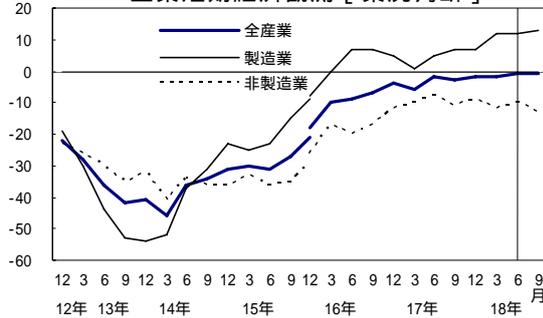
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1~3 月期	4~6 月期	4~6 月期	4~6 月期
化学	17.6	1.8	0.3	2.0	1.4
鉄鋼	12.1	3.0	0.3	0.2	3.7
輸送機械	12.0	0.4	2.6	5.9	5.7
一般機械	10.4	9.3	11.1	3.7	31.4
電子部品・デバイス	7.6	9.8	2.5	5.8	-
鋳工業	100.0	0.3	2.1	1.3	4.0

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。  
2. 4~6月期は速報値。  
3. 電子部品・デバイスの在庫指数は公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

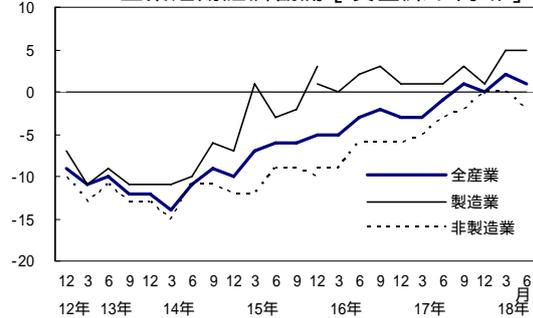
#### 企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。18年9月は予測。  
15年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
15年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。18年 期は見通し。

#### 景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

「企業法人向け通信サービスの引き合いはやや伸びをみせてきているが、受注内容は高品質高価格商品が少なく、品質的には劣るインターネット利用の低価格商品の割合が高い。ユーザーサイドからみてコストアップ的なサービスはまだ敬遠されている(通信業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 18年度の設備投資は前年度を下回る計画となっている。

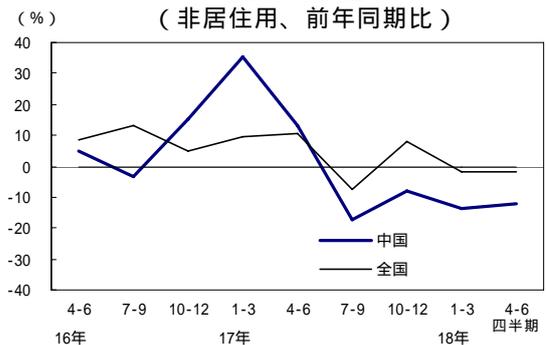
企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

(前年度比、%)

	17年度実績	18年度計画
全産業	10.1( 0.3)	5.6( 8.9)
製造業	21.1( 0.6)	15.7( 3.6)
非製造業	6.7( 2.2)	14.4(17.8)

(備考)( )は前回(3月)調査比修正率。

建築着工床面積  
(非居住用、前年同期比)



(8) 中国

2. 需要の動向

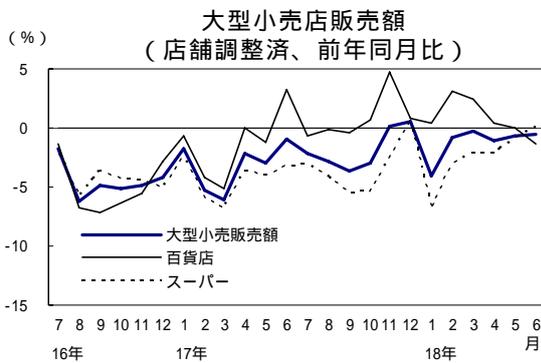
(1) 個人消費は緩やかに回復している。

大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、4月は、気温が低めに推移したことから、衣料品が不調であったものの、物産展等の催事効果により、7か月連続で前年を上回った。5月は、月後半から気温が低下し、衣料品の動きが鈍くなったことに加え、前年に比べ日曜日が1日少なかったことにより、8か月ぶりに前年を下回った。6月は、カジュアル系衣料や浴衣には動きがみられたものの、引き続き気温が低く、婦人服の夏物衣料が不調であったため、2か月連続で前年を下回った。スーパーは、期間を通じて衣料品、家庭用品ともに不調であったものの、飲食料品に動きがみられたため、前年比のマイナス幅は縮小している。

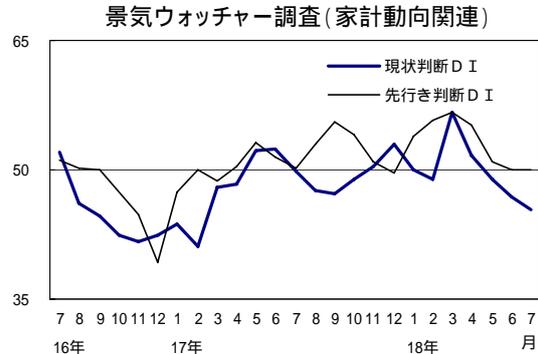
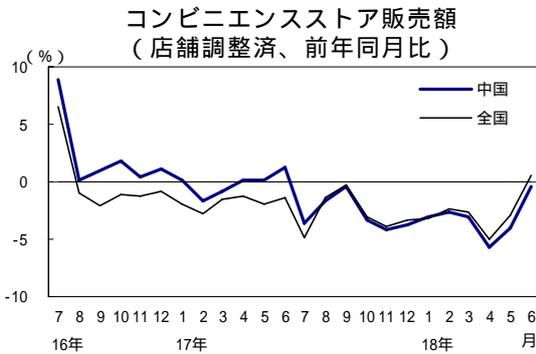
景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

「長い梅雨と大雨の影響により、来客数は減少した。ただし、お中元については前年比減を予想していたが、ほぼ前年並みの売上は確保している。要因として、中元単価の上昇があり、景気回復の一面が感じられる(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	17年7-9月	10-12月	18年1-3月	4-6月
大型小売店	2.8	0.6	1.8	0.8
百貨店	0.4	1.9	1.8	0.3
スーパー	4.2	2.3	4.2	1.0
コンビニ	1.9	3.8	3.0	3.4
景気ウォッチャー	48.2	50.8	51.8	49.1

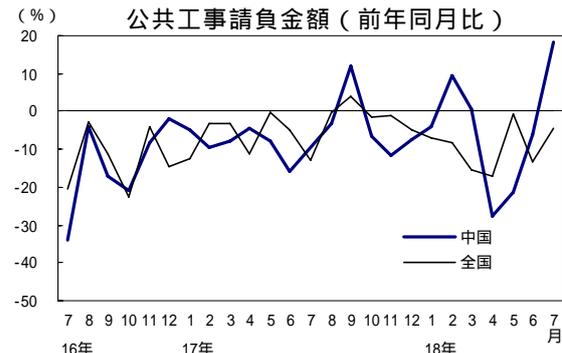
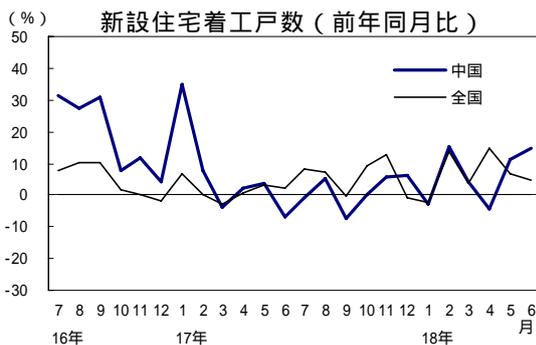
(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。  
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

貸家、分譲が前年を上回ったことから、全体では大幅に増加している。

(3) 公共投資は18年度累計で見ると前年度を下回っている。

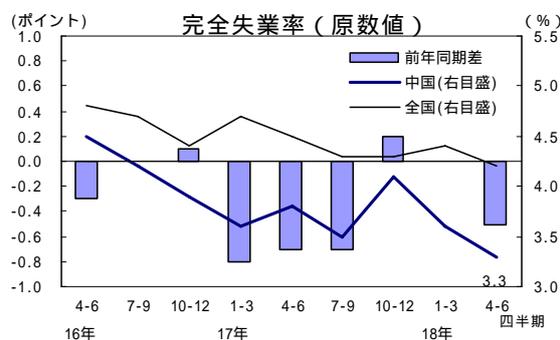
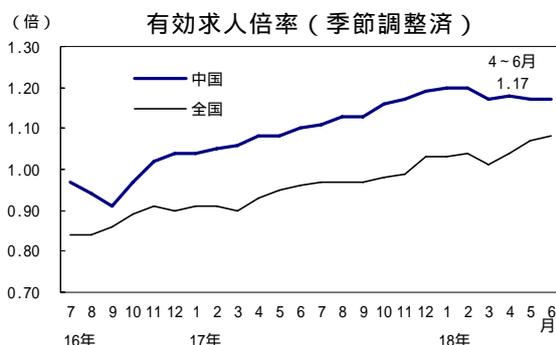


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (7月)[雇用関連(現状)]

「新規求人数の増加傾向は続いているが増加幅が縮小している。新規高等学校卒業生対象求人も昨年と比較して増加しているが受付開始時の勢いが弱くなった(職業安定所)」など「変わらない」とする回答が多くみられた。

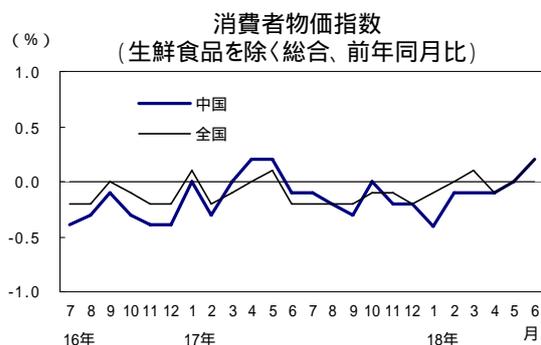
(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額は増加している。

7月に件数が大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は上昇に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	17年7-9月	10-12月	18年1-3月	18年4-6月	18年7月
倒産件数	117	153	184	145	56
(前年比)	23.5	9.3	38.3	3.3	27.3
負債総額	423	626	772	498	345
(前年比)	4.9	94.2	84.4	31.9	68.9



景気ウォッチャー調査 (7月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・ 来客数の動きが若干だが戻ってきたような感じがある。企業関係のゴルフも、大都市の企業を中心に少し動きがある(ゴルフ場)

<先行き>

- ・ 住宅ローン金利の先高感があるが、客の動きはあまり変わらない(住宅販売会社)

景気ウォッチャー調査(合計)

